

第5学年*組 図画工作科学習指導案

指導案 村瀬 恵子

1 題材名 マイタワーをつくろう！

2 目標

- ・アルミ針金を使ってタワーをつくることに関心をもち、自分の思いをもって取り組もうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- ・アルミ針金を曲げたり、束ねて立てたりしながら、自分のイメージに合う形を考えることができる。
(発想や構想の能力)
- ・自分のイメージに合うように、アルミ針金の曲げ方や立たせ方、装飾を工夫して表すことができる。
(創造的な技能)
- ・自他の作品を鑑賞し、タワーの立て方や装飾の工夫を感じ取ることができる。(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、アルミ針金の特性を生かし、美しさやバランスを考えた立て方や装飾を工夫しながら、思い描いたタワーをつくる活動である。アルミ針金は、自由に曲げたり束ねたりできるよさや金属特有の美しさをもつ材料であり、これを立体的に組み合せて自分なりのタワーをつくることは、児童にとっても魅力的な活動であり、自分の思いをもちながら工夫して取り組むことが期待できる。

(2) 児童の実態

本学級では図画工作の学習が好きな児童が多く、毎時間の活動をとても楽しみにしている。しかし、自分の表したいことがイメージできずに、作品例や友人の作品をまねてしまったり、イメージ通りにつくることができずに悩んだりする児童も見られる。表現活動に関する意識調査を行ったところ、自分のイメージ通りにつくることができると答えた児童は8人であり、このことから、自分のイメージをもったり、イメージしたことを工夫して表現したりできるような授業を開ける必要があると考える。

(3) 指導観

児童の実態を踏まえ、本題材では、まず、自分がつくりたいタワーのイメージを広げるために、授業の導入でいろいろな太さの針金を自由に曲げる・つなげる・伸ばす・巻くといった材料体験活動を取り入れる。このことで、児童は、針金にはどのような特徴があるのか実感をもって理解し、製作のイメージを広げることができると考える。次に、製作途中で、自分の表したいことや工夫点について発表し合い、意見を交流する相互鑑賞を取り入れる。このことで、児童は、表現のイメージを更に広げたり、表現の工夫について新たな気づきを得ることができるようになると考える。このような学習活動を展開することで、自らのイメージをふくらませながら、工夫して表す力を育んでいきたいと考える。

4 題材の評価規準

観点	造形への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	アルミ針金を使ってタワーをつくることに関心をもち、自分の思いをもって取り組もうとしている。	アルミ針金を曲げたり、束ねて立てたりしながら、自分のイメージに合う形を考えている。	自分のイメージに合うように、アルミ針金の曲げ方や立たせ方、装飾を工夫して表している。	自他の作品を鑑賞し、タワーの立て方や装飾の工夫を感じ取っている。

5 指導計画（6時間扱い）

次	時間	学習活動・内容	関心	発構	創造	鑑賞
1	1	・友人とかかわりながら活動する材料体験遊びを通して、材料の特徴を生かしたアイデアスケッチをする。	◎	○		
2	2	・材料や用具に触れ、形や見え方の表現を試しながらつくる。		◎	○	
3	②	・製作途中で相互鑑賞し、自分の作品のイメージや工夫を発表するとともに、友人から見た自分の作品のイメージやアドバイスを製作に生かす。			◎	○
	1	・互いの作品を鑑賞し合い、自分や友人の作品のよさや工夫点などを見付ける。				◎

6 本時の学習

(1) 目標

アルミ針金の特性を生かし、曲げ方や立たせ方、装飾の工夫を考えながら、自分のイメージに合ったタワーをつくることができる、

(2) 準備・資料

教師…世界のタワーの写真、作品例、学習カード、材料（太さの違うアルミ針金、綿、アルミはく）、用具（ペンチ、接着剤）

児童…集めた身辺材

(3) 展開

学習活動・内容	・指導上の留意点 ◎評価
1 本時の学習課題をつかむ。 アルミ針金の曲げ方や立たせ方を工夫して、「マイタワー」をつくろう！	・前時の活動を振り返り、製作のポイントである基本的な曲げ方や立たせ方、道具の扱い方などについて、児童の発言を生かしながら確認する。
2 中間発表会を行う。 (1) 自分の作品のイメージや工夫点を発表する。 (2) 友人の作品を鑑賞して感じたことや、発表を聞いて、表し方のよさや工夫点、面白さなどについて感じたことを付箋に書き、互いに交換する。	・中間発表会を通して、これから製作の手掛かりを得るようにすることを呼びかける。 ・グループでの発表時間は、目安のみを示すことにより、十分に話し合えるようにする。 ◎友人の作品を鑑賞し、タワーの立て方や装飾の工夫を感じ取っている。（付箋、学習カード） ・机間指導を行い、友人の作品のよさが見付けられない児童を見取り、個別に対応する。
3 中間発表会で交流したことを生かし、作品を仕上げる。	・自分のイメージに近付くように材料や用具を工夫している児童を称賛する。 ・製作の途中で新たなアイデアが浮かんだ児童には、アイデアスケッチと違った「マイタワー」になることも認めるようにする。 ◎自分のイメージに合うように、アルミ針金の曲げ方や立たせ方、装飾を工夫して表している。（観察、製作中の作品、学習カード） ・思うような表現ができずに戸惑う児童には、どのようなイメージにしたいのか確認し、材料や用具の使い方を助言する。 ・学習カードを活用して本時の活動を振り返り、身に付いた力を実感できるようにする。
4 本時の学習を振り返り、片付けを行う。	